

教育目標

「自己を見つめ
他を思いやる心」

肥田中だより

令和6年度
7月号

「未来へ繋がる出会いを」

校長 鈴木 雄詞

私が教師になろうとしたきっかけは、高校の国語の先生との出会いでした。その先生は、当時50歳ぐらいで頭髪は薄くなりかけ、口は達者で言葉遣いが悪く、生徒のことは「おまえ」、自分のことは「俺」、教科書に出てくる作家たちのことは「あいつ」とおっしゃっていました。初対面のイメージとしては最悪です。しかし、知識が豊富で教科書には載っていないような興味深いことまで教えていただき、その巧みな話術に私はあっさり引き込まれていました。そして文学の面白さにのめりこんでいきました。また、その先生は授業中の厳しさとは裏腹に、とても生徒思いで、私たちの思いに寄り添ってくださる姿が印象に残っています。時には、私たちのために他の先生とも闘ってくださいました。ですから、私にとってはいつしか最も信頼のおける存在となり、失恋したときには、職員室で悩みを聞いていただき、「実は俺もなあ、若いころに…」と、頭を掻きながら語っていただいたことを鮮明に覚えています。その時、私はビビッときました。「こんな大人になりたい」と。

さて、子供たちは自分の進路を考える学生時代に、いったい何人の「素敵な大人」と出会えるでしょう。「奇跡的な出会い」「運命の出会い」は偶然であり、もしかしたら一度も出会いがないかもしれません。

ですから、本校ではキャリア教育として、意図的に「出会い」を仕組んでいます。生徒の興味関心もそれぞれですから、皆が目を輝かせるとは限りません。しかし、偶然を待つのではなく、私たち教師が「出会い」を用意してもよいのではないかと、そう考えています。



1年生

工業組合の方から、地元の産業である美濃焼について、全国トップクラスの生産量であることやディズニーランドで販売されているカップは肥田産であることなどを聞いてびっくりした様子でした。



2年生

元羽田空港の航空管制官の方（NHKプロフェッショナルに出演）から、旅客機の離発着にかかわる仕事の面白さや、チームで働くことの喜びなどを教わりました。無線機を使い英語で管制官とパイロットのシュミレーションも行いました。



3年生

高校の先生をお招きし、高校の種類や特性、どうしたら有意義で楽しい学校生活を送ることができるのかなど、具体的なお話を聞くことで、高校選びのイメージを膨らませることができました。昨年度までに出会った方から聞いたことや体験したことを生かしていけるとよいです。

【肥田中HP】

